



議会だより  
No.168  
平成29年8月15日

7月18日 総務文教常任委員会所管事務調査

3月号の主な内容

一般質問……………②～⑦

難波議員 地方交付税の配分抑制

福村議員 道の駅の管理運営

中島議員 ひとり親家庭通院支援

赤石議員 自然展示館利用状況

など、6質問

審議結果・議会の動き……………⑧～⑨

蘭越町議会議員行政視察……………⑩～⑪

議会日誌 編集後記……………⑫



# 大湯沼自然展示館の活用状況

## 今後の活用の進捗状況について

### 今後の活用について協議・検討している

#### 大湯沼自然展

示館は、以前、管理人もおり、来館者もいたと思いますが、現在は休館中とお聞きしております。

今までの来館状況及び今後の運営方針について、伺います。

#### 大湯沼自然展示館は、

蘭越町の豊かな自然資源の活用を図り、自然とのふれあいにより学術文化の向上と観光の振興を図る施設として、平成8年4月10日に開設されました。

開設年度は1万5,012人の方が来館されましたが、その後、平成11年度は6,148人、平成24年度は574人と減少する中、チセヌプリスキー場の休止と併せて平成25年10月31日から休館しております。

今後の運営方針につきましては、チセヌプリスキー場の民間譲渡に併せて、有効活用できないか検討しており、現在はスキー場の譲渡先であるJRトトレディングと

活用方法について協議をしている状況です。

5月29日には、会社から活用計画案が示され、冬場は二セコが世界の一流リゾートとして発展していく一方、雪崩事故等、山岳事故が後を絶たないため、チセヌプリエリアを山岳教育の中心として、雪崩教室の講習会場として、様々な団体等にスペースを開放し利用してもらい、リゾートは二セコ、山岳教育は蘭越チセヌプリからとして発信していきたいとのことでした。また、夏場は、キャンプ場や雪秩父の環境を活かしながら、チセヌプリトレッキング、マウンテンバイク、フィッシング等、大自然と触れ合えるキッズキャンプの誘致やカルチャースクール、学生サークルのフリースペース等、利用者のアイデアを積極的に受け入れたイベントのレンタルスペースとして、多様なユーザーを誘致していきたいと企画が出されたこと

ろです。当該施設は十分利用価値もあるため、活用させていただきたいと申し出を、現在は受けております。

町としては、大湯沼自然展示館には、環境省からふれあい・やすらぎ温泉地整備事業の指定を受け、大湯沼周辺の整備を行った際に建設した経緯もありますので、施設の用途変更についての確認作業、長期間使用しておりませんので、水周り等の施設状況の確認、また、大湯沼周辺が多くの人で賑わうような活用方法であるのか、町にとってメリットがあるのか内部でよく検討し、判断をしていきたいと考えております。

夏山シーズンになるのと、登山客も観光客も多く、雪秩父は宿泊ができないので、自然館の内部を改装して素泊まりのログハウスやキャンプ場にコテージを建て、有効活用していければと思います。

会社との窓口は、副町長に行ってもらっていますので、再度、副町長から答弁をさせていただきます。

JRトトレディングからも、夏の活動について、

あそこを拠点にして盛り上げていければと、提案も受けておりますが、本当に町にとつてそれが良いことなのか、もう少し煮詰めた後で、議会の中でも御指導、御助言等をいただきながら、この問題につきましても進めていきたいと思っております。

あのような良い建物を、老朽化させるのはもったいないですし、素泊まりでも泊まれるようにしていれば、観光客がもっと来れると思うので、そういう方向で進めていきたいと思っております。

内部でもう少し時間をいただいで協議した中で、議会のほうにも相談させていただきたいと思っております。いずれにしても、あの施設をそのままに置くというかたちではなくて、次の段階に進めていきたいという考え方は持っております。

